

(本メールマガジンは、これまで日越大学構想に関するセミナー・会議等に参加された方や、名刺交換させていただいた方々にお送りしております。)

日越大学は、日本とベトナムの両政府により、両国の友好と結束の象徴として新たに設立された大学です。2016年9月にベトナム・ハノイで開校しました。現在修士課程に約150名の学生が在籍し、日本語と英語を学び、MBA・公共政策・地域研究・ナノテクノロジー・環境工学・社会基盤の各専攻プログラムで勉強しています。

皆さん、こんにちは！日越大学構想・国内支援事務局です。

本メールマガジンでは、毎月1回、日越大学の近況や日越大学を取り巻くベトナムの状況について、読者の皆様にお届けいたします。このメルマガを通して、もっとたくさんの方に日越大学のことを知っていただきたいと思います。

【今月のトピックス】

1 日越大学ニュース

・研究教育評議会開催

11月17日に日越大学において、「第2回日越大学研究教育評議会」が開催されました。当日は、ベトナム側から8名、日本側から9名の委員が出席し、テレビ会議システムを通じて、日越大学の中長期的な発展戦略の方向性や教育計画、組織モデル等について、闊達な意見交換が行われました。

・日本就職キャリアセミナー開催

11月24日、ベトナム国内で人材サービスを展開するパソナテック・ベトナム社より講師を招き、「日本就職キャリアセミナー」を開催。日越大学の学生・職員合わせて約50名が参加しました。講師からの「日本企業に就職したい人は？」との質問には、会場内の学生の9割以上が手を挙げるなど、日本企業への関心が非常に高い様子が伺えました。その他にも、本セミナーでは日本企業の求める人材像や日本のビジネスマナー講習などが行われ、学生にとって日本企業での就業イメージがより具体化されたイベントとなりました。

・ベトナム国家大学・外国語大学（ULIS）主催日本語教育シンポジウム

11月10日、ULIS主催の日本語教育・日本研究学会において、日本語教育分野のプログラム・ディレクターである早稲田大学の宮崎教授、栗飯原（あいばら）専門家、松浪専門家、Lien先生、ならびに地域研究プログラムの学生3名の計7名より、口頭発表が行われました。そのうち栗飯原専門家、松浪専門家からは、「社会の変容に伴うビジネス日本語モデルの変容～共通語によるビジネス接触場面からの一考察～」、「初級前期のプロジェクト・ワークの試み～学習者の自律的な日本語学習に着目して～」との演題にて発表が行われました。

また栗飯原専門家は、パネルディスカッション「大学から企業への橋渡し～企業が求める人材と日本語能力：21世紀の高度人材の育成～」にも登壇するなど、日越大学のアカデミックな側面を学外へPRする貴重な機会となりました。

・「能」ワークショップ開催

11月10日、プロ能楽師の辰巳孝弥氏（宝生流シテ方能楽師）、岸田晃司氏（能管）、今井尋也氏（小鼓）を日越大学へお招きし、「能」ワークショップが開催されました。ワークショップでは、能管、小鼓、謡と仕舞についての解説を受けたほか、一部の学生は実際に小鼓と仕舞を体験したり「八島」の舞囃子などを鑑賞するなど、初体験の「能」を存分に味わうことができました。

・第3回クエストキャリア in ハノイ2017において、MASチームが見事グランプリを獲得

・拓殖大学と日越大学、学術交流協定を締結

以下のFacebookページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/jicavju/>

2 日越大学で働く専門家の紹介

【第6回：桂良太郎専門家（公共政策プログラム）】

ベトナム・ハノイの日越大学で働く方々を紹介するコーナー。今回は、桂良太郎専門家（公共政策プログラム）をご紹介します。

1950年大阪市生まれ、京都外国語大学大学院で英語学修士、関西大学大学院で社会学修士を得て、奈良大学社会学部から立命館大学に移り、国際関係学部の国際インスティテュート教授や立命館国際平和ミュージアム副館長を歴任、「国際福祉」や「平和学」に関する講義を担当されまし

た。その後、定年を機に日越大学設立へ参画、現在は筑波大学と日越大学の架け橋的存在として活躍されています。

「アジアの農村がこれからどう変貌していくかをしっかり見定めないかぎり、ベトナム社会全体の変化は読み解けない」というのが桂先生の口癖です。20歳のときにカナダ原住民の地で成人式を迎えたり、京都大学「近衛ロンド」のメンバー時代には、ミクロネシア探検をはじめとした世界各地の農村(ムラ)でのフィールド調査を経験するなど多様なバックグラウンドを持っていますが、専門領域は社会福祉政策の中の家族福祉政策です。

枯れ葉被害児のベト・ドクさんたちとの出会いをきっかけとして、国立シンガポール大学の先生等とアジアの平和学や社会福祉政策に関する共同研究を開始し、ICSD(国際社会開発に関する国際会議)でもユニークな論文を発表、その論文が“Social Science”に掲載されるなど、アジアの研究者からも注目されています。

趣味は、小さいときからの「歌舞伎」鑑賞と歌舞伎役者の実筆作品収集という奇想天外な一面も持っていますが、学生にはいつも笑顔で接し、親しまれている先生です。

「ゆめ・ゆとり・ゆうき」をモットーとする桂先生が日越大学で実現したい「ゆめ」は、ホアラック地区において「茶室」と「歌舞伎・能」などを体験できる、桜と蓮の文化漂うオペラハウス(通称『古田ガーデン』)をつくること(日本とベトナムの風土にあった文化力を体感できる学びの「里山庭園」づくり)とのことでした。

3 プログラム紹介

【第4回：公共政策プログラム(MPP)】

前号に引き続き、日越大学修士課程の各専攻プログラム(MBA・公共政策・地域研究・ナノテクノロジー・環境工学・社会基盤)の学生や講義の様子などを紹介してまいります。今回は、公共政策プログラム(MPP)をご紹介します。

公共政策プログラムは、持続可能な開発のための政策プロセスについて、参画・実施・改善を行うための知識とスキルを身につけるプログラムです。本プログラムは、経済学及びパブリック・マネジメントをベースにしつつ、国際統合・地域連帯に伴う移行経済の特徴や要請をしっかりと見抜き考慮していけるよう、様々なカリキュラムが設定されている点に特徴があります。

公共政策は、特に現場での実証的な調査研究が重要です。現在、日本またはベトナムでインターンシップ中の学生は、様々な場所でのフィールドワークや実習体験を重ねています。それらの経験を通じて、将来のベトナムにどのような社会政策が必要か、そのためにはどのようなスキルが要求されるかなどを考えながら、一人一人の自己実現につながるように研究教育指導がなされています。今後は、就職指導を強化することが課題となります。

公共政策の学生たちを見ていると、結束力の強さを感じます。この結束力こそが、今後の一人ひとりの学びと成長を更に発展させていくものと期待しています。

【お問合せ先】

(独) 国際協力機構 (JICA) 東南アジア・大洋州部内

日越大学構想・国内支援事務局 神田・新村

Tel: 03-5226-9065 E-mail: 1rtd3-vju@jica.go.jp

日越大学 HP <http://admission.vju.ac.vn/>

JICA HP <https://www.jica.go.jp/project/vietnam/040/index.html>

日越大学 Facebook (ベトナム語) <https://www.facebook.com/vju.edu.vn/?fref=ts>

日越大学 Facebook (日本語) <https://www.facebook.com/jicavju/>

【メール配信停止・変更】

本メールマガジンの配信停止・宛先の変更・追加をご希望の方は、お手数ですが、日越大学構想・国内支援事務局 (1rtd3-vju@jica.go.jp) までメールにてご連絡をお願いいたします。